



【平成30年11月号】

清水小学校

校長 高井正樹

体験の秋！！

5年生が10/18（木）、清水町森林組合のご指導・ご協力のもと、清水町の産業について学ぶ「森林・林業体験学習」を行いました。日勝峠へ向かう国道沿いの町有林で、鋸を使ってカラマツの枝払いを体験したり、新得町にある製材工場で木を加工する様子を見学したりしました。子どもたちは、五感を使った貴重な“ほんもの体験”を通して、町の産業である林業への理解を深めることができました。森林組合の皆さん、ありがとうございました。



1年生が国語の「はたらくじどう車」の学習で、実際にバスに乗り、バスの中のつくりや働きについて学びました。10/18（木）、学校の前に黄色い大きなバスがやって来ました。路線バスに乗った経験がほとんどないと思われる子どもたちにとって貴重な体験です。ワクワク、ドキドキしながら、一人一人整理券を取って、いざ乗車！JR十勝清水駅までのプチ旅行を楽しみました。

2年生がみんなで汽車に乗って帯広に行きました。清水駅で一人一人切符を買い、いざ乗車。帯広駅の自動改札機を通るときはちょっぴり緊張気味だったようです。その後、帯広郵便局と音更町のよつ葉乳業主管工場の見学に行き、ハガキや手紙が配達される仕組みや牛乳ができるまでの様子などをしっかり学んできました。お弁当をゆっくり食べることができないほど過密な日程でしたが、みんな楽しく、貴重な体験をすることができました。



5年生が10/25（木）～26（金）、帯広市児童会館へ宿泊学習に出かけました。出発前からテンションMAXの子どもたち。きっと、この日を首を長くして待っていたのでしょう。児童会館では、工作教室やプラネタリウムの見学、科学実験や天体観測などの学習はもちろん、友だちとお風呂や寝食をともにすることで、5年生の絆をさらに深めることができました。

全校参観日 & PTA研修会

9月28日(金)に全校参観日がありました。80名程の参観者に来ていただきました。ありがとうございます。また、授業参観終了後には、体育館にてPTA研修会が実施されました。今回は「ベーシックヨガ教室」と題し、とてもさわやかな汗をかけたのではと思います。参加した皆さんのリラックスした表情がとても印象的でした。



今年も りんご収穫体験してきました!



1・2・3年生が、中英俊さんのお宅でリンゴの収穫体験をしました。「小さな農園」ができるまでについてのお話をいただき、収穫と試食をさせていただきました。今年もお世話となり、ありがとうございました。

盲導犬体験学習

10月12日(金)に、6年生が盲導犬体験学習を行いました。札幌から来ていただき、講話も入れながら、貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。



秋の愛校日 みんなで綺麗に!

10月14日(日)に秋の愛校日を実施しました。今年は秋晴れの中、実施することができました。とても丁寧な作業で、大変感謝しております。皆さんのお陰で学校全体が明るくなりました。また、最後には飲み物とアツアツのふかし芋が配布されました。貴重な木日に、ご協力いただきありがとうございました。



(教頭 川崎 広輝)

清水中学校2年生は、「総合的な学習の時間」のなかで、『職場体験学習』を行っています。この学習を通して、働くことや自己の進路について考える機会とし、これからの学び方、生き方を一層意義ある充実したものにするのをねらいとしています。また事前学習では、情報の集め方、調べ方、まとめ方、そして発表する力を身に付けるべく様々な学習を通して、体験の準備をしました。

11月1日（木）朝、緊張した表情の2年生は青空の下、元気にそれぞれの職場に向かい、町内各事業所にお世話になりました。大人の方々と一緒に・・・中学生としての甘えは捨てなくては。そんな思いを持ちながら、これまでの学習を踏まえ訪問させていただきました。

私が学生の時の「昭和」にはなかった学習。今の学生はいいなあとうらやましく思います。

生徒たちは普段行う机の上での勉強では得ることのできないものをたくさん得ることができました。挨拶の大切さ、生活のための基盤、やりがい、職場でのチームワーク、お客様の喜ぶ顔、信用・信頼、食品を扱う責任、人のために何かをすることが働くこと、等々、表現は拙い部分ではありますが、大切なことを感じ取ることができたようです。至らぬ点やまだの所は多々ありますが、これからの社会や清水を担う子どもたちが周りの人と協力して、自分の中の喜びを見付け、素敵な社会人に成長することを期待したいと思います。

これらは町内各事業所の皆様の協力なしではできなかったことです。ご協力に深く感謝申し上げます。



（教頭 須藤 正 博）

御影中学校

前期の終わりに責任を果たしました

9月末に文化祭が終了し、前期の予定を無事終えることができました。地震による停電が続き、2日間の臨時休業はありましたが、大きな被害もなく通常に戻ることができました。

生徒会や学級では新しい役員が選出され、前後期の入れ替えが行われたところです。



生徒会専門委員会で前期の反省がされた翌日、花壇にはたくさんの保体委員と部員が集まりました。寒くなったとはいえ、まだきれいに咲いている花々の間には、雑草が茂っていました。専門委員会の話し合いで花壇の手入れをし

てこなかったことに気付き、後期にバトンタッチする前に責任を果たすべく、保体委員会が行動を起こした、という場面でした。各学級とも全く世話をしていなかったわけではなかったのですが、かなりの雑草畑化した状態が続いていたので、今回の行動はとてもよかったと思います。気付き行動する、今年の御影中学校が目指す姿が現れたと言えます。今後もこのような気付きが広がって、行動に移す生徒の姿がたくさん場面で見られるよう期待しています。

(教頭 宗形 真恵)

清水高等学校

校長 平野 道雄

「どさんこ☆子ども十勝地区会議」

10月27日(土)、新得町公民館で「どさんこ☆子ども十勝地区会議」が開催されました。協議テーマは「十勝管内全ての児童生徒が『いじめはどんな理由があっても許されないこと』と思えるために」でした。

本校生徒は、先の全道サミットに十勝代表として参加した2年次の牧野菜奈さん(清水中出身)と飯田菜弥さん(芽室西中出身)を中心に、十勝管内の小中高生が混在するグループでのアイスブレイクや協議の進行などで活躍しました。そして、いじめを許さないと思えるための行動宣言として「いじめについて意見を述べ合う場を設定し、児童生徒同士がコミュニケーションを大切にする行動をしよう。」「自分の困り感や悩みを伝え合う場を設定し、児童生徒と先生がコミュニケーションを大切にする行動をしよう」を策定し、同時に開催された「十勝教育を考えるつどい」で、たくさんの教育関係者を前に堂々と発表していました。



【アイスブレイクで自己紹介のお手本】



【グループ協議で行動宣言を策定】



【最後に大勢の人の前で行動宣言を発表】

販売実習「至福のひととき」

本校生産技術系列の食品分野で学習している3年次生が、これまで授業で開発に取り組んだり、コンテストに出品したりした商品の、本校生徒への販売実習を行いました。本校実習棟に設けた販売店舗は、名付けて「Un bel momento」(至福のひととき)。スイーツなど6種類、計85個限定で昼休みに販売しました。販売開始と同時に行列ができる盛況ぶりで、買った人も売った人も、まさに幸せな時間を過ごしていました。

本校総合学科では、学年進行とともに5つの系列に分かれた学習が増え



ますが、こうした他の系列の学習に触れる機会は、お互いの学習への理解を深め、相互に敬意を払うとともに、本校への誇りや愛着につながることを期待できます。



【開店までの準備】



【開店の頃には長蛇の列】



【開店後の販売の様子】

地域を学ぶ、地域に学ぶ授業

本校の3年次の選択科目である「評論研究」では、「郊外の社会学」の単元で、清水町の発展について学習しました。選択者45名が3～4名ずつのグループに分かれてタブレット等を使い2時間調べた結果を資料にまとめ発表し、最後は論文形式で文章にまとめます。清水町内はもとより、町外の生徒も、自分が高校時代を過ごしている清水町を題材にすることで、身近な地域に関心を持ち、それぞれの地域の発展に向けた具体的な提言を考察する機会となりました。

また、同じく3年次の選択科目「生涯スポーツⅡ」の授業では、清水町社会福祉協議会からサポーターを派遣いただき、高齢者の歩行機能や認知機能などを高める「ふまねっと」の講習会を開きました。その次の授業では、受講した内容を生徒が実際に指導者になってプログラムを進め、高齢者の健康保持のための心配りや気遣いなどを体験的に学びました。

一方、1年次では「産業社会と人間」の授業で「ライフプラン（10年後の自分）」の作成にあたり、人生の先輩としての生き方の考えを理解するとともに、自己の生き方について考える機会とするため、地域で働く方々への取材活動を行いました。3～4名のグループが清水町駅周辺の25事業所を訪問し、生の声を聞き多くのことを学びました。

こうした授業は、地域から社会を学び、地域に生きる社会人としての自覚と責任を培う有為な取組であり、「主権者教育」の充実につながるものと考えています。今後も、地域の方々のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



【ふまねっとサポーター講習】

お年寄りと一緒にゲーム！！

今年も10月5日（金）に、さくら組16名で清水町デイサービスセンターを訪問しました。

初めは緊張の様子でしたが、歌4曲（とんぼのめがね、動物園に行こう、バスごっこ、おたまじゃくし）を歌った頃には笑顔が自然に出るようになりました。“手あそび”“踊り”（やさい音頭、ぴかぴか音頭）を披露するころにはすっかり自分たちのペースになり、思いきり踊りを披露することができました。その後は、ふれあい遊びとして”肩たたき、握手でこんにちは、メディシングボールでゲームをして“さくらさんとお年寄りが一緒に楽しみました。

音楽に合わせてお年寄りに肩たたきをすると、「とても上手だね。気持ちよかったよ」と褒めてくれたり、ボールまわし競争では、チームが勝てるよう一緒に声を掛け合ったりして取り組みました。緊張の中にも精いっぱい笑顔と練習の成果をしっかりと披露できたひと時となりました。帰りには「とっても楽しかった」と口々にお話をしていました。



焼いものは最高！



年長組ばらさんが、10月12日（金）に清水高校に行き、春に植えたさつまいもの収穫をしました。そのお芋をゆっくり乾かし熟成させ、10月26日（金）に「やきいもの会」で高校生のお兄さんたちが焼き芋にしてくれました。

待っている間に、お兄さんたちにお手伝いをいただき、園児全員で、夏の外遊び用の自転車などと、冬遊び用のスノーブレードなどとの入れ替えをしました。力持ちのお兄さん

たちのお陰であっという間に終わることが出来ました。感謝しています。焼きあがった甘いお芋と一緒に食べた味は格別でした。

栽培・飼育活動として大根、芋、人参、枝豆など清水高校の生徒さんにお手伝いをいただきながら育ててきました。野菜の草取りや水やりなど、年齢に応じた活動をすることで、苦手な野菜にも挑戦して、食べられるようになった子もいました。



第一保育所

もみじの山をつくったよ

ますます深まる秋を感じながら、自然との触れ合いを楽しんでいる子どもたち。園庭の落ち葉が赤や黄、オレンジへと姿を変えて、子どもたちの心を楽しませています。落ち葉を拾って一箇所に集めて、大きな山をつくって遊んだり、色の綺麗な紅葉を拾い「きれいな赤色だよ」と見せ合ったりと、それぞれ思い思いに楽しむ姿が見られます。風が吹くと、集めた紅葉が飛んでいく様子を見て喜び、「お～」と歓声を上げる姿も見られ、秋の遊びを満喫している子どもたちです。



さて、朝夕は寒さを感じられるようになりましたが、日中はまだ暖かさを感じられ、子どもたちも元気に活動できる季節です。保育所では、できるだけ戸外に出て太陽の下で過ごし、冬に向けての体力づくりをしていきたいと思えます。

(保育士 上 西 叶 未)

なかよし発表会

10月7日(日)清水町文化センターにて第一保育所の「なかよし発表会」が行われました。台風が心配される中、子どもたちの願いが空に届いたのか、多少の雨はありましたが、たくさんのお客様に来ていただき開催することが出来ました。

保護者の方や他の皆さんの暖かい声援や拍手に力をもらい、歌や踊り・楽器など、毎日一生懸命練習してきた姿を、子どもたちはドキドキしながらも嬉しさと楽しさで、キラキラと輝き発表することが出来たと思えます。子どもたちの成長を感じる1日になりました。



(保育士 日 野 みゆき)

第二保育所

頑張った発表会

10月28日(日)、清水町文化センターで第45回ゆうぎ会が行われました。子どもたちはゆうぎ会に期待を持ち、曲に合わせて体を揺らしたり、自分なりに踊ってみたりと練習の時からとても楽しんでいました。しかし、練習を重ねるごとに嬉しそうな表情から真剣な表情へと変わり、時には役になりきり、時には踊りを早く覚えようと必死になって

練習をしていました。

ゆうぎ会当日、緊張した表情をしている子もいれば不安な気持ちから泣いてしまう子もいましたが、舞台上になると気持ちを切り替え一人一人が一番良い顔をして演じていました。

そう組のお友達は最後のゆうぎ会。カッコ良い姿を見せるために、8つの演目を何度も何度も練習をしてきました。

運動遊びの跳び箱では、なかなか跳べず何度も悔しい思いをしながら練習してきた子どもたち。しかし、努力を積み重ねてきた子どもたちは当日、自信に満ちあふれていて、とても輝いて見えました。



(保育士 福田 沙彩)

秋の製作(はりねずみ)ぺんぎん組 (3歳)

秋の製作、はりねずみを作りました。はりねずみの顔にクレヨンで目、鼻、口を描いて、個性的なはりねずみの顔が出来ました。紅葉の葉の色画用紙を2枚重ねで切ったので、紙が厚く(久しぶりにハサミを使ったので)ちょっと苦労しながらも頑張って切っていました。枯葉をイメージして、葉っぱをたたんで、開いてから葉の模様をクレヨンで描きました。はりねずみの体を絵具で茶色く色を塗り、白い部分が残らないように丁寧に塗っていました。絵具が乾いてから体を毛糸で巻きつけてみましたが、巻き方が難しく自分で考えながら、苦労しながらも真剣な眼差しで行っていました。セロハンテープで毛糸を固定する所や毛糸が緩んだところは、先生にちょっと手伝ってもらいながら一緒に作りました。



(保育士 平井 浩美)

御影保育所

楽しかったね！発表会

10月21日(日)に第46回発表会が行われました。この日に向けて練習を重ねていた子どもたちです。御影保育所は、同年齢での遊戯の他に、3才以上児の縦割クラスで行う劇(オペレッタ)もあります。年長児がリーダーとなり、年中・年少児と力を合わせて作り上げる劇で、今年は何のクラスもセリフ劇に挑戦しており、年長児の頑張りが光っていました。

また、小さいクラスは衣装も可愛く、お返事をしたり滑り台を上り下りしたりして、その年齢でできる無理のない発表をしていました。泣いてしまう子もいましたが、小さいクラスは舞台上で立つだけでも良く頑張ったと思います。

年長児は劇や遊戯の他、器楽や運動遊びもありました。保育所最後の発表会、“おわりのことば”で発表会を終えるまで、みんなで力を合わせて頑張りました。一人一人の成長を感じ、胸が熱くなるのは家族も保育者も同じ。最後の発表会で得た充実感が自信となり、これからの生活に生かされることを期待しています。

☆ハッピーハロウィン☆

10月31日(水)はハロウィンでしたね。ちまたでは街で仮装をして大騒ぎ！なんて話もありますが、御影保育所でもちょこっと変装して、保育所の中を歩いて楽しみました。小さいクラスの子もたちが帽子やマントをして歩いているのを見て、大きいクラスからも「いいな～」とのつぶやきがあり、それを聞いた所長先生がおやつを用意してくれました。先生達は「トリック or トリート！」(お菓子をくれないといたずらしちゃうぞ)という言葉子どもたちに教え、変装した子どもたちが所長先生の所へ行き、無事に言えたらお菓子が貰えます。小さいクラスは可愛い袋に入ったお菓子、大きいクラスはくじ引きでお菓子をもらってにこにこでした。(変装グッズは、保育所で発表会用にあったものや、先生方の個人の持ち物を持ち寄りしました)

本来は外国の収穫祭であることや、死者が帰ってくる日であることも学び、楽しく季節の行事を味わった日となりました。



(保育士 田村 暁子)

教育委員会

子どもの心を磨く大人のチームづくりに！

しみず「教育の四季」“地域とともにある学校づくり推進フォーラム”を10月20日(土)町文化センターで開催しました。

来年度から導入されるコミュニティ・スクールに向けて、しみず「教育の四季」をさらに発展させ、多くの地域住民や保護者に子どもたちの成長に関わっていただくためにはどうすればいいのかをみんなで考える場として設定させていただきました。



講師であります文部科学省 国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 総括研究官(併) 社会教育実践研究センター 社会教育調査官 志々田 まなみ 氏からは、次世代の学校・地域のありべき姿～地域とともにある学校づくり～と題して御講演をいただきました。その後のワークショップでは、参加者の皆様方による活発な意見交流がなされました。

コミュニティ・スクールをとおり、次世代の清水町を支える人材の育成と学校を核として地域をよりよくするためにお互いに汗をかき合うチームとして成熟していくことが望まれます。

参加されました皆様方に心より感謝し、お礼申し上げます。

(教育指導幹 清水彦一)



感性みず教育の四季

家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで「12の窓」から
感性あふれ、表情豊かな子を育てる

秋～心を染める色の中で 感性みずみずしく

家庭・学校・地域

今月の取組

家庭は、テレビ消し

家族そろって夕べの読書

地域は、笑顔で声掛け

こんにちは